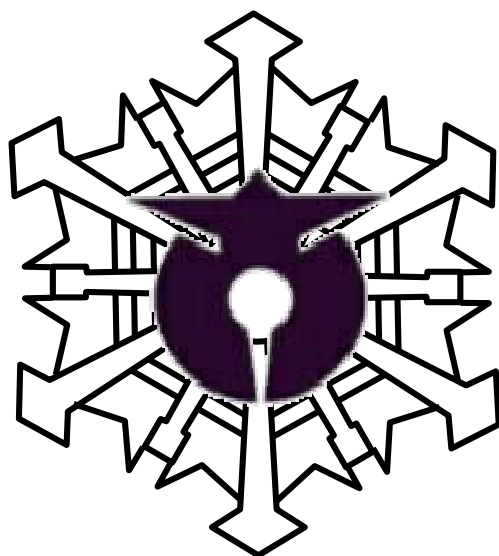


消防年報

平成 22 年版



高萩市消防本部

は し が き

本書は、高萩市の現勢及び平成22年中の消防業務に関する諸般の事項を集録し広く消防事情を紹介するために編集したものです。

この統計は、平成23年3月31日現在をもって作成したのですが、これによらないものについてはそれぞれ記載した年月日現在より作成しました。

平成23年4月

高萩市消防本部



がんばろう
高萩!!

消 防 人 訓

わたくしたち消防人は、消防が水火災等の災害を防ぎ、社会公共の安寧と福祉に寄与することの甚大なことを自覚し、つぎのことを信条として一善、市民に奉仕します。

- 一 消防人は勇気を尊ぶべし
- 一 消防人は迅速を旨とすべし
- 一 消防人は責任を重んずべし
- 一 消防人は規律を正しくすべし
- 一 消防人は協同一致すべし

昭和41年6月5日制定



平成23年高萩市消防出初式 高萩市消防団本部付女性団員

管内の概況

1 位置と地勢・気候

高萩市は、茨城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、西は阿武隈山系南端の多賀山地が連なっている。

北部は県北端の北茨城市、西部は常陸太田市に接しており、首都東京から 150km 圏内に位置し、県庁所在地の水戸市の北約 45km の地点にある。

面積は 193.65 k m² (東西 17.6km 、南北 20.0km)

気候は、東日本型気候に属し、太平洋に面しているため、県内の内陸部に比べると冬は温暖で夏は涼しくなっている。

なお、山間部は海拔 300~500m という地理的条件により、海岸部より年平均気温が約 2 度低い内陸性気候を示している。

2 沿革

当市は古くは万葉の歌人、高橋虫麻呂も「遠妻し高にありせば知らずとも手綱の浜の尋ね来なまし」と歌っているように歴史と伝統の由緒ある街で、古くは松原千軒、稲村千軒、赤浜千軒とその繁栄の姿が史実に残っているとおり、古代繁昌の地であったことは多くの出土品からも伺い知ることが出来る。

中世においては、大塚氏が松岡に童子城を築城し当地方を治めたが関ヶ原合戦以後慶長 7 年戸沢氏の所領となり、以後戸沢氏は 20 年間この地を治めたが元和 8 年 (1622 年) に徳川の時代を迎えて新庄 (現在の山形県新庄市) の加増のうえ国替えとなり領地は水戸藩のものとなったが、以後正保 3 年 (1646 年) 水戸藩の附家老中山氏が知行地として拝領することとなり、明治元年には松岡藩として独立し、明治 2 年藩籍奉還に至るまで中山氏の城下町として発展した。

明治以降は郡役所、税務署、営林署、警察署等が設置され地方における政治経済の中心的な役割を担いつつ今日に至る都市基盤が確立された。

更に地域の産業においても常磐炭田の南端に位置する石炭産業のまちとして、又江戸時代から林業と馬の産地として発展を見せた。

昭和 29 年 11 月 23 日に高萩町、松岡町、高岡村と黒前村の一部が合併して高萩市が誕生した。昭和 30 年代に入ってエネルギー革命が進む中で石炭産業は次第に斜陽化の道をたどり、昭和 43 年に石炭産業としての歴史は閉じられ、それに伴い人口も減少を見るにいたった。その後在来の木材加工業や、昭和 29 年に誘致したパルプ工場をはじめ、松久保、手綱、手綱 B 工業団地に誘致した企業の着実な進展にともない人口も回復し新しい産業都市を目指した基盤整備が民間活力を生かしつゝ計画的に実施されている。更に 21 世紀を展望した新総合計画「海と緑を生かした産業文化都市」の創造のために、大きな期待をしていた常磐自動車道が福島県富岡 IC まで開通し、高萩市も広大な自然を背景とした大型リゾート地域の開発が企画されており、「日本の渚百選」に選ばれた高戸海岸を始め、美しい砂浜や海食崖などが広がる海岸の整備事業、一方緑豊かな山間地域においては、その基盤となる道路網の整備と小山ダム周辺のレークサイドリゾートの形成や新たなライフスタイルに対応した生活空間の創造のための整備事業計画を策定し、輝く未来にむけて着実な躍進が期待されている。

常 備 消 防 の あ ゆ み

| | | |
|---------|-----------------------|---|
| 昭和 40 年 | 4. 1 6. 8 | 高萩市消防本部（署）発足 消防吏員総員 21 名 初代消防長 安村 篤氏（市長事務取扱） 署長 岩本 啓治氏（助役）就任 水槽付ポンプ自動車 1 台にて消防業務開始 |
| 昭和 41 年 | 4. 1 6. 5 | 消防吏員 2 名採用 総員 23 名 消防署長に中山 実氏 就任 |
| 昭和 42 年 | 3.31 4. 1 | 消防吏員 1 名退職 消防吏員総員 22 名 |
| 昭和 43 年 | 4. 1 | 消防吏員 1 名採用 総員 23 名 |
| 昭和 44 年 | 4. 1 7. 1 12. 1 | 消防吏員 13 名採用 総員 26 名 救急業務を開始する 第 2 代消防長 中山 実氏（署長兼務）就任 救急自動車配置 |
| 昭和 45 年 | 4. 1 6. 5 9.20 | 消防吏員 2 名採用 総員 28 名 その他の職員市役所より 1 名出向 指令車配置 消防ポンプ車増設 庁舎(389.89 m ²)が狭隘になったため鉄筋コンクリート 2 階建 133 m ² 増築 |
| 昭和 46 年 | 4. 1 | 消防吏員 2 名採用 総員 30 名 その他の職員 1 名 |
| 昭和 47 年 | 4. 1 | 消防吏員 3 名採用 総員 33 名 その他の職員 1 名 |
| 昭和 48 年 | 4. 1 6. 1 | 消防吏員 1 名採用 総員 34 名 その他の職員 1 名 第 2 代消防長 中山 実氏 退任 第 3 代消防長に助役 下山田 一郎氏（事務取扱）就任 消防ポンプ自動車購入 |
| 昭和 49 年 | 7. 1 | 第 3 代消防長 下山田 一郎氏（事務取扱）退任 第 4 代消防長に本郷 芳氏（署長、課長兼務）就任 救急自動車（山之内製薬より寄贈）配置 |
| 昭和 50 年 | 4. 1 | 消防吏員 5 名採用 総員 38 名 その他の職員 1 名 |
| 昭和 51 年 | 9.30 | 第 4 代消防長 本郷 芳氏 退任 第 5 代消防長 佐藤 健雄氏（署長、課長兼務）就任 |
| 昭和 52 年 | 2.12 12.15 | 救急自動車（関彰商事株式会社より寄贈）配置 水槽付消防ポンプ自動車 1 台配置 |
| 昭和 53 年 | 4. 1 | 消防吏員 2 名採用 総員 40 名 その他の職員 1 名 |
| 昭和 54 年 | 4. 1 | 高萩市・十王町事務組合消防本部発足 初代消防長 佐藤 健雄氏 就任 消防吏員 21 名採用 総員 61 名 十王分署開設（本部 7 名 高萩消防署 33 名 十王分署 21 名） |
| 昭和 55 年 | 3.26 4. 1 | 十王分署 救急自動車（山之内製薬より寄贈）配置 消防吏員 1 名採用 総員 62 名（本部 8 名 高萩消防署 33 名 十王分署 21 名） |
| 昭和 56 年 | 4.30 7. 1 | 初代消防長 佐藤 健雄氏 退任 第 6 代消防長に管理者 鈴木 藤太氏（消防事務取扱）就任 第 7 代消防長 石田 富吉氏 就任 |
| 昭和 57 年 | 12. 9 | 高萩消防署 消防ポンプ自動車（CD-II 型）配置 消防ポンプ自動車廃車（45 年購入） |

| | | |
|---------|-------------------------------|--|
| 昭和 59 年 | 4. 1 8.20 | 消防吏員 2 名採用 総員 64 名 新庁舎完成 鉄筋コンクリート 2 階建 (1 階 668.20 m ² 、2 階 593.03 m ² 、延面積 1,261.23 m ² 訓練塔 2 棟併設 144 m ² (高さ 17m と 7m)、外高圧充填所 RC 造 10.25 m ²) |
| 昭和 61 年 | 3.31 4. 1 7. 1 9.30 | 第 7 代消防長 石田 富吉氏 退任 第 8 代消防長管理者 鈴木 藤太氏 (消防長事務取扱) 就任 第 9 代消防長 大都 直教氏 就任 消防吏員 1 名 退職 総員 62 名 |
| 昭和 62 年 | 1.31 4. 1 | 消防吏員 1 名 退職 総員 61 名 消防吏員 3 名 採用 総員 64 名 |
| 昭和 63 年 | 12.27 | 救急自動車 (山之内製薬より寄贈) 配置 |
| 平成 2 年 | 11. 4 | 消防吏員 1 名退職 総員 63 名 |
| 平成 3 年 | 3. 2 3.27 4. 1 | 十王分署 消防ポンプ自動車 (BD-I) 配置 高萩消防署 水槽付ポンプ自動車 (I-B) 配置 消防吏員 4 名採用 総員 67 名 その他の職員 1 名採用 |
| 平成 4 年 | 4. 1 | 十王分署が十王消防署に昇格 消防吏員 5 名採用 総員 72 名 その他の職員 1 名 |
| 平成 5 年 | 3.25 3.31 4. 1 11.12 | ひとり暮らし緊急通報システム開所 第 9 代消防長 大都 直教氏 退任 第 10 代消防長に木村 進氏 就任 消防吏員 5 名採用 総員 76 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 75 名 その他の職員 1 名 |
| 平成 6 年 | 4. 1 | 消防吏員 5 名採用 総員 80 名 その他の職員 1 名 茨城県立消防学校に講師として 1 名派遣 |
| 平成 7 年 | 2.10 3.31 4. 1 12.31 | 高萩消防署 屈折はしご付消防自動車配置 消防吏員 2 名退職 総員 78 名 その他の職員 1 名 消防吏員 5 名採用 総員 83 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 82 名 その他の職員 1 名 |
| 平成 8 年 | 4. 1 | 消防吏員 6 名採用 総員 88 名 その他の職員 1 名 |
| 平成 9 年 | 3.14 4. 1 | 高萩消防署 水槽付ポンプ自動車 (II 型) 配置 消防吏員 2 名採用 総員 90 名 その他の職員 1 名 県防災航空隊に 1 名派遣 |
| 平成 10 年 | 3.04 3.31 4. 1 | 高萩消防署高規格救急車配置 第 10 代消防長 木村 進氏 退任 第 11 代消防長に金沢 英雄氏 就任 消防吏員 1 名採用 総員 90 名 その他の職員 1 名 |
| 平成 11 年 | 1.20 4. 1 | 高萩消防署事務室を講堂に移動 旧署事務室を指令室 緊急指令室開所 |
| 平成 12 年 | 3.28 3.31 4. 1 | 高萩消防署 水槽付ポンプ自動車 (I-B) 配置 第 11 代消防長 金沢 英雄氏 退任 消防吏員 2 名退職 総員 87 名 その他の職員 1 名 第 12 代消防長に坪 和久氏 就任 消防吏員 2 名採用 総員 89 名 その他の職員 1 名 県生活環境部消防防災課に 1 名派遣 |
| 平成 13 年 | 1.25 4. 1 | 十王消防署 高規格救急車配置 消防吏員 2 名採用 総員 91 名 その他の職員 1 名 |

| | | |
|---------|-------------------------------|--|
| 平成 14 年 | 3.31 4. 1 | 第 12 代消防長 坪 和久氏 退任 第 13 代消防長に佐藤 勝彦氏 就任 消防吏員 2 名採用 総員 92 名 その他の職員 1 名 |
| 平成 15 年 | 4. 1 10. 5 | 高萩消防署 救助工作車配置 消防吏員 1 名採用 総員 93 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 92 名 その他の職員 1 名 |
| 平成 16 年 | 3.31 4. 1 7. 1 11. 1 | 第 13 代消防長 佐藤 勝彦氏 退任 消防吏員 1 名 退職 第 14 代消防長に皆川 泰男氏 就任 消防吏員 1 名採用 総員 91 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名採用 総員 92 名 その他の職員 1 名 市町村指令第 21 号により高萩市・日立市事務組合消防本部となる |
| 平成 17 年 | 4. 1 | 消防吏員 5 名採用 総員 97 名 その他の職員 1 名 県防災航空隊に 1 名派遣 |
| 平成 18 年 | 3.16 3.31 4. 1 | 十王消防署 消防ポンプ自動車 (CD-1) 配置 消防吏員 2 名退職 総員 95 名 その他の職員 1 名 消防吏員 5 名採用 総員 100 名 その他の職員 1 名 |
| 平成 19 年 | 3.31 4. 1 7.31 10.30 | 第 14 代消防長 皆川 泰男氏 退任 消防吏員 11 名退職 第 15 代消防長 河野 泰喜氏 就任 茨城県立消防学校に講師として 1 名派遣 消防吏員 5 名採用 総員 94 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 93 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 92 名 その他の職員 1 名 |
| 平成 20 年 | 3.31 4. 1 | 第 15 代消防長 河野 泰喜氏 退任 消防吏員 7 名退職 高萩市・日立市事務組合消防本部解散に伴い全職員が高萩市・日立市事務組合を退職 高萩市消防本部発足 十王消防署 日立市消防本部に移管 高萩市・日立市事務組合消防本部職員中、60 名(消防吏員 59 名その他の職員 1 名)が高萩市消防本部職員として採用される 26 名は日立市消防本部へ採用 第 16 代消防長 小野 眞氏 就任 消防吏員 総員 59 名 その他の職員 2 名 (うち市役所より 1 名出向) |
| 平成 21 年 | 4. 1 9.26 | 消防吏員 総員 59 名 その他の職員 2 名 (うち市役所より 1 名出向) 県防災航空隊に 1 名派遣 高萩消防署 高規格救急自動車 ((社) 日本損害保険協会より寄贈) 配置 |
| 平成 22 年 | 3.31 4. 1 | 消防吏員 1 名退職 消防吏員 総員 58 名 その他の職員 2 名 (うち市役所より 1 名出向) |
| 平成 23 年 | 3.11 3.31 | 東日本大震災 第 16 代消防長 小野 眞氏 退任 |

消 防 の 浴 革

高萩市消防団

- 1 消防制度は明治27年(1894年)2月勅令第15号で消防規則が公布されたことにより、明治31年(1898年)1月本県令第1号をもって消防組規則施行細則が公布されたが、当地方では松原町消防組が明治27年(1894年)8月に設置され、続いて明治31年11月松岡村消防組、高岡村消防組がそれぞれ設置された。
- 2 大正11年当時の消防組としては、松原組一円を区域とする松原消防組(組頭1、小頭28、部長6、消防手289)、松岡村一円を区域とする松岡村消防組(組頭1、小頭17、消防手171)の外は私設消防組として関口、千代田、秋山の炭鋤消防組があった。その後、昭和8年現在の松原町消防組は部数7(高萩、安良川、島名、秋山、北方、石滝)ガソリンポンプ2台、腕用ポンプ7台で、当時の組頭は石平之丞氏であり、その頃の火災出場件数は、昭和7年8回、昭和8年4回であった。
- 3 その後、消防組の組織の活動はたいした変化はみられなかったが、昭和12年(1937年)7月日華事変が勃発し戦争が熾烈化するにつれ、消防組の重要性が次第に認識され、昭和14年消防組は警防団と改編され、組織の拡充が図られ、従来の防火、水防対策にしぼられていた消防活動は、勢い戦争目的遂行のため国策に協力すべく大幅に拡大された。即ち防火、防空、水難救助対策は勿論、自警、避難の誘導、防空壕掘り、出征兵士留守家族の手伝い、勤労奉仕等あらゆる活動を展開するに至った。
- 4 戦後は、昭和22年(1947年)の消防制度の改革により、昭和22年7月高萩町消防団及び高岡村消防団、昭和23年6月松岡町消防団が各発足し、各新しい市町村の消防制度に切り換えられたが、施設等は殆ど戦前の状態であった。
- 5 昭和29年(1954年)11月23日、町村合併により高萩市の誕生をみるに至り、消防組織も高萩市消防団として統合され、当初は3支団、21ヶ分団、団員731名で初代団長は矢代良三氏が就任した。次に、昭和31年4月1日、消防団機構の改革を実施し、支団制を廃して21ヶ分団、団員445名に削減し、第2代団長に沼田吉人氏が就任した。次に昭和32年4月1日、分団統合を行い、8ヶ分団21部制に改編、さらに昭和36年12月1日に分団再編成を行い、3ヶ分団を増設11ヶ分団21部となり、昭和39年4月第3代団長に鳥居塚鉄治氏が就任した。
- 6 昭和41年第4分団、昭和43年第1分団及び第5分団の各消防ポンプ自動車を更新し、消防団の組織も指揮統制、昭和44年4月1日から21ヶ分団制に改編し、第4代の団長に穂積政次氏が就任した。
- 7 昭和46年第14分団に消防ポンプ自動車を配置した外、日本損害保険協会よりの寄贈による消防ポンプ自動車を第12分団に配置し、市街地より遠隔の地にある山手地域の消防力の機械化を図る第一着手として、国県費補助を得て小型動力ポンプ積載車3台、昭和47年に1台を購入し、第17、第18、第19、第20分団に各配置し、昭和48年度には同じく2台を購入し、この計画の完成を見る等、消防力は画期的な前進を見るに至った。
- 8 消防水利のうち、消火栓の整備は昭和43年から昭和48年度までに222基が完了し、昭和48年4月1日から水道事業開始に伴い使用可能となり、従来の防火貯水槽と合わせて消防水利設置基準の82%が達成できた。
- 9 消防団の指揮統率上副団長2名を3名に改め、昭和49年4月1日から実施した。
- 10 昭和50年12月10日第9分団に昭和51年12月25日第10、11分団に小型動力ポンプ積載車を配置、全分団の機動化が完了した。
- 11 昭和53年2月18日第8分団積載車老朽のため更新した。
- 12 昭和54年3月20日第7分団、第15分団の積載車、昭和54年11月20日第3分団の消防ポンプ自動車を各々老朽のため更新した。
- 13 昭和55年12月13日第2分団消防ポンプ自動車第6分団小型動力ポンプ積載車を各々老朽のため更新した。
- 14 昭和57年3月第9分団消防詰所兼車庫老朽化に伴い取り壊し新たに鉄骨造り2階建延38.88㎡の車庫兼詰所を新築した。
- 15 昭和57年8月第9分団に配置してある小型動力ポンプ老朽化に伴い更新し、体制の強化を図った。

- 16 昭和 57 年 12 月第 1 分団詰所兼車庫老朽化に伴い取り壊し新たに鉄骨造り 2 階建延 59.76 m²の詰所兼車庫を新築した。
- 17 昭和 58 年 3 月消防庁長官より優良消防団として表彰旗を受領した。
- 18 昭和 58 年 4 月 1 日副団長豊田恒氏退団に伴い副団長に鈴木彰氏が就任した。
- 19 昭和 59 年 4 月 1 日副団長下山田義郎氏退団に伴い副団長篠原新一郎氏が就任した。
- 20 昭和 60 年 3 月 29 日第 19・20・21 分団の小型動力ポンプ老朽のため更新した。
- 21 昭和 60 年 4 月 1 日副団長黒尾良氏退団に伴い副団長に大部正氏が就任した。
- 22 昭和 61 年 2 月第 16 分団消防詰所道路拡張工事に伴い移転改築した。ブロック造り平屋建 22.93 m²。
- 23 昭和 61 年 3 月第 5 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新し消防体制の強化を図った。
- 24 昭和 61 年 8 月日本損害保険協会よりの寄贈による消防ポンプ自動車を第 4 分団に配置し、市街地より遠隔の地にある山手地域の消防力の機械化を図った。
- 25 昭和 61 年 11 月第 1 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新し消防体制の強化を図った。
- 26 昭和 62 年 4 月 1 日副団長大部正氏退団により小林高弘氏が就任した。
- 27 昭和 62 年 9 月 1 日副団長小林高弘氏退団により沼田浩氏が就任した。
- 28 平成元年 3 月第 19 分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し消防体制の強化を図った。
- 29 平成元年 4 月 1 日副団長鈴木彰氏退団に伴い鈴木健二氏が就任した。
- 30 平成元年 10 月第 12 分団自動車ポンプ老朽化に伴い更新し設備の強化を図った。
- 31 平成元年 12 月第 20 分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し設備の強化を図った。
- 32 平成元年、平成 2 年度にわたり第 12 分団詰所改築並びに外構工事を行い施設の整備を図った。
- 33 平成 2 年 12 月第 14 分団自動車ポンプ老朽化に伴い更新し設備の強化を図った。
- 34 平成 3 年 3 月第 17 分団積載車老朽化に伴い更新し設備の強化を図った。
- 35 平成 3 年 10 月第 21 分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し設備の強化を図った。
- 36 平成 3 年 10 月第 16 分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 37 平成 3 年 10 月第 16 分団（防災町づくり）第 21 分団（水力発電施設周辺地域整備事業）の積載車を更新し設備の強化を図った。
- 38 平成 4 年 3 月第 18 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延 40.32 m²の車庫兼詰所を改築し施設の整備を図った。
- 39 平成 5 年 3 月第 18 分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し設備の強化を図った。
- 40 平成 5 年 3 月第 17 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋瓦葺建延 50.32 m²の車庫兼詰所を改築し施設の整備を図った。
- 41 平成 5 年 11 月 5 日平成 5 年度茨城県高萩市総合防災訓練を高萩市立君田小学校、君田中学校を会場に 104 機関・団体の参加をえて実施した。
- 42 平成 6 年 3 月第 9 分団積載車老朽化に伴い更新し、設備の強化を図った。
- 43 平成 7 年 3 月第 11 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延面積 50.32 m²の赤浜地区コミュニティー消防センターを改築、同時に第 11 分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 44 平成 7 年 12 月 31 日団長穂積政次氏退団により第 5 代団長に篠原新一郎氏が就任した。
- 45 平成 8 年 3 月第 10 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延 50.07 m²の高戸地区コミュニティー防災センターを改築、同時に第 10 分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 46 平成 9 年 3 月第 8 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延面積 50.07 m²の石滝地区コミュニティー防災センターを新築、同時に第 8 分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 47 平成 9 年 3 月第 5 分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造 2 階建延面積 70.73 m²を水力発電施設周辺地域整備事業により改築し、分団施設の整備を図った。

- 48 消防団の指揮統率上副団長3名を4名に改め、平成9年4月1日から実施、同年4月2日付で、副団長に岩間輝亘氏が就任した。
- 49 平成10年9月財団法人日本消防協会より小型動力消防ポンプ（B-II級）積載車の寄贈を受け、第15分団に配置した。
- 50 平成11年3月第7分団積載車老朽化に伴い更新し、設備の強化を図った。
- 51 平成11年4月副団長鈴木健二氏退団により、鈴木廣美氏が就任した。
- 52 平成12年3月第3分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
平成12年3月第6分団積載車老朽化に伴い更新し、設備の強化を図った。
- 53 平成12年4月副団長沼田浩氏退団により、大高忠氏が就任した。
- 54 平成12年9月第2分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 55 平成13年4月第7分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積51.95㎡の秋山下コミュニティ消防センターを新築した。
- 56 平成14年3月第19分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積50.32㎡の横川コミュニティ消防センターを新築した。
- 57 平成15年3月第4分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積76.18㎡の消防団詰所新築
- 58 平成16年6月第14分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積65.41㎡の消防団詰所新築
- 59 平成17年4月1日団長篠原新一郎氏退団により第6代団長に細金秀隆氏が就任し、副団長に作山吉平氏が就任した。
- 60 平成19年1月第4分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 61 平成20年3月第5分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 62 平成20年5月第1分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 63 平成21年4月1日副団長岩間輝亘氏退団に伴い副団長中村泰治氏が就任した。
- 64 平成21年9月第12分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 65 平成22年2月財団法人日本消防協会より、優良消防団として表彰旗を受領した。
- 66 平成22年2月総務省消防庁より、小型動力消防ポンプ（B-II級）付積載車の無償貸し付けを受け第19分団に配備した。
- 67 平成22年4月本部付女性消防団員が発足
- 68 平成22年9月第14分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 69 平成22年12月財団法人日本消防協会より助成を受け、本部付女性団員に対し軽可搬ポンプ（D-1級）を配備した。
- 70 平成23年2月財団法人日本消防協会より指令車の寄贈を受け、消防団本部・消防本部共同運用とし高萩消防署に配備した。

消防分布図

| 記号 | 種 類 |
|----|-------------|
| | 消防本部・署 |
| | 消防ポンプ自動車 |
| | 水槽付消防ポンプ自動車 |
| | 救助工作車 |
| | 屈折はしご車 |
| | 救急自動車 |
| | 小型動力ポンプ付積載車 |
| | 指令車 |
| | 査察車 |
| | 広報車 |
| | 連絡車 |
| | マイクロバス |

